

ロールシャッハ法研究

第 **22** 卷

2018(平成30)年11月



〈巻頭言〉

日本ロールシャッハ学会の更なる発展をめざして……………小川俊樹…………… 1

〈原 著〉

思考と感情の体験様式に着目した解剖反応の再検討……………吉村 聡…………… 3

単一型離人神経症における体験の変動性……………吉村 聡……………16

ロールシャッハ法の変化からみた「なぐり描き (Mess Painting)」法の
「自我のための退行」促進作用について……………伊藤俊樹……………30

ロールシャッハ・テストの色彩反応と情動刺激による
ストループ干渉の関連……………松田 凌……………42

〈第 21 回大会 教育・研修委員会企画ミニシンポジウム〉

これからの心理アセスメント教育を考える
……………高橋 昇・黒田浩司・小海宏之・高橋靖恵・中原睦美……………54

〈情 報〉

「国際ロールシャッハ及び投射法学会第 22 回大会」印象記Ⅰ……………黒田浩司……………64

「国際ロールシャッハ及び投射法学会第 22 回大会」印象記Ⅱ……………松井一裕……………66

会務報告……………68

投稿・執筆要項……………87

日本ロールシャッハ学会



The Japanese Society
for the Rorschach
and Projective Methods